

第5次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物
The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

アカハライモリ

Cynops pyrrhogaster (Boie, 1826)

富永篤（琉球大学）・松井正文（京都大学）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会 爬虫類・両生類分科会



環境省 編

令和8（2026）年3月



特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：富永篤・松井正文，2026．アカハライモリ．環境省（編）第5次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 652-656．

Citation: Tominaga, A. and M. Matsui, 2026. *Cynops pyrrhogaster* (Boie, 1826). In: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 652-656.

アカハライモリ

Cynops pyrrhogaster (Boie, 1826)

カテゴリー判定結果		準絶滅危惧 (NT)		①②③	
基準 A: —	基準 B: VU 未満	基準 C: —	基準 D: —	基準 E: —	
生息状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。 具体的には、分布域の一部において、次の傾向が顕著であり、今後さらに進行するおそれがあるもの。 ①個体数が減少している。 【判断理由】 生息地や出現範囲は、広いが、低地は圃場整備に伴う乾田化、水路のコンクリート化で、例えば、福岡県平野部など各地で個体群自体が消失している。山間部の林縁の水田も離農に伴う放棄水田の増加で、陸地化、乾燥化が進み個体数が減少している。それに加えて、飼育・販売目的の乱獲が散見される。 ②生息条件が悪化している。 【判断理由】 全国の平野部で圃場整備に伴う生息環境の悪化、山間部の放棄水田の増加は見られており、全国的に生息環境の劣化や消失が見られる。九州北部の平野部の水田ではほとんどの個体群が消失している。 ③過度の捕獲・採取圧による圧迫を受けている。 【判断理由】 インターネットサイトなどでは、野外で採集された個体が 100 個体単位で、大量に安価に販売されている事例がかなりの頻度で見られ、高い捕獲圧による圧迫を受けている。					
評価分科会： 爬虫類・両生類分科会					

概要

本種は本州から九州まで広く分布していたが、各地で生息環境が悪化し、加えて、飼育・販売目的で大量に採集され、販売されているため、個体数が激減している。

基礎情報

【形態】

全長 70～140 mm。鋤骨歯列は深い逆 V 字型で、四肢は長く、尾は極度に側偏する。背面は黒褐色で、腹面は赤色に黒色の斑紋がある。雌雄多型が著しく、オスは尾が短く先端は糸状をなし、青白色の婚姻色を生じる。オスの総排出腔開口部は膨大する。

【生活史】

求愛行動（体内受精）は 4～7 月と秋に行われ、どちらの精子も授精能力がある。卵は 1 粒ずつ、水草などに産み付けられる。幼生は水中生活を送ったあと、年内に変態するのが普通。その後は陸上で生活し、3 歳で性的成熟して、水中に留まるようになると考えられている。各地で遺伝的分化が進んでおり、とくに関東・東北産は他地域と大きく異なる。求愛行動にも地域差が見られる。強い神経毒をもつが、鳥類、ウシガエル、マムシが天敵として知られる。

【生息環境】

低地から山地に分布。水田、池、溪流、溝などで生活する。

生息環境区分：	【陸域 中標高地 低標高地】森林，田地・畑地，耕作放棄地，農業用水路，湿地・湿原・細流，河川中流域，ため池・池沼，湖・ダム湖 【陸域 平地部】裸地，森林，草地，河口域，ワンド，農業用水路
国土地域区分：	(2) 里地里山・田園地域，(4) 河川・湿地地域

【分布域】

本州、四国、九州の低地から山地。

現在の生息状況

【分布域の現況】

低地の田んぼや池などから高標高地域の止水環境に広く分布しているが、かつて広く分布していた低地では、圃場整備に伴い、水田の乾田化や用水路のコンクリート化が進み、激減している。また、最近では、林縁部の良好な環境の残された山間部の水田も、放棄水田となっていることが多く、水田跡の陸地化、乾燥化が進み、山間部の水田などでも減少している。

【生息地の現況】

圃場整備、耕作方法の変化、用水路・溝のコンクリート化、農薬散布、水質悪化、乱開発による生息地の消滅、轢死、乱獲などにより、各地で生息数が激減している。

【個体数の現況】

生息地の悪化に加え、飼育・販売目的で大量に採集され、安価に販売されていることもあり、減少傾向にあるのは間違いない。

存続を脅かす要因

変態後、性成熟して水に戻る間の生活場所である草地や森林の開発、成体の生息場所であり、繁殖場所でもある水環境の悪化、消失が最大の脅威である。マムシなど外敵による捕食もあるが、かつては実験用に大量に捕獲され、現在もペット用としての採取がかなりの程度で行われ、脅威となっている。

要因の区分：	(過去)	湖沼開発，河川開発，湿地開発，圃場整備，草地開発，土地造成，交通事故，水質汚濁，農薬汚染/化学物質汚染，捕獲・狩猟/園芸採取，捕食（在来種による）
	(現在)	湖沼開発，河川開発，湿地開発，圃場整備，草地開発，土地造成，交通事故，水質汚濁，農薬汚染/化学物質汚染，捕獲・狩猟/園芸採取

特記事項

特になし。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アカハライモリ	<i>Cynops pyrrhogaster</i>	NT
第4次 2019:	アカハライモリ	<i>Cynops pyrrhogaster</i>	NT
第4次 2018:	アカハライモリ	<i>Cynops pyrrhogaster</i>	NT
第4次 2017:	アカハライモリ	<i>Cynops pyrrhogaster</i>	NT
第4次 2015:	アカハライモリ	<i>Cynops pyrrhogaster</i>	NT
第4次:	アカハライモリ	<i>Cynops pyrrhogaster</i>	NT
第3次:	アカハライモリ	<i>Cynops pyrrhogaster</i>	NT
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和6年度末時点）

【青森県】希少野生生物(C ランク)，【岩手県】留意，【宮城県】絶滅のおそれのある地域個体群(LP)，【山形県】準絶滅危惧(NT)，【福島県】準絶滅危惧(NT)，【茨城県】準絶滅危惧，【栃木県】絶滅危惧Ⅱ類(B ランク)，【群馬県】絶滅危惧Ⅱ類(VU)，【埼玉県】絶滅危惧ⅠA類(CR)，【千葉県】最重要保護生物(A)，【東京都（本土部）】絶滅危惧ⅠB類(EN)，【東京都（区部）】絶滅危惧ⅠA類(CR)，【東京都（北多摩）】絶滅危惧ⅠB類(EN)，【東京都（南多摩）】絶滅危惧ⅠB類(EN)，【東京都（西多摩）】絶滅危惧ⅠB類(EN)，【神奈川県】絶滅危惧Ⅰ類，【新潟県】準絶滅危惧(NT)，【富山県】準絶滅危惧(NT)，【福井県】要注目，【山梨県】絶滅危惧Ⅱ類(VU)，【長野県】準絶滅危惧(NT)，【静岡県】準絶滅危惧(NT)，地域個体群(LP)(南伊豆集団)，【愛知県】絶滅危惧ⅠA類(CR)(渥美種族)，準絶滅危惧(NT)(中間種族)，

【滋賀県】要注目種, 【京都府】要注目種, 【大阪府】NT, 【兵庫県】要注目種, 【奈良県】希少種, 【和歌山県】準絶滅危惧(NT), 【鳥取県】その他の保護上重要な種(OT), 【岡山県】準絶滅危惧, 【広島県】準絶滅危惧(NT), 【山口県】準絶滅危惧(NT), 【香川県】準絶滅危惧(NT), 【愛媛県】準絶滅危惧(NT), 【高知県】注目種, 【福岡県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【熊本県】準絶滅危惧(NT), 【鹿児島県】準絶滅危惧

保護に係る法令指定状況（令和7年度末時点）

都道府県条例指定種【埼玉県・愛知県】

参考文献

- 富永篤, 松井正文, 2021. アカハライモリ. 日本爬虫両棲類学会（編）, 新日本両生爬虫類図鑑, pp. 30-31, サンライズ出版, 彦根.
- Tominaga, A., Mf. Matsui, and Mm. Matsui, 2021. Structure and movement of the hybrid zone between two divergent lineages of the Japanese newt *Cynops pyrrhogaster* (Amphibia: Urodela) in Central Japan. Journal of Zoological Systematics and Evolutionary Research, 59(5): 1097-1112.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

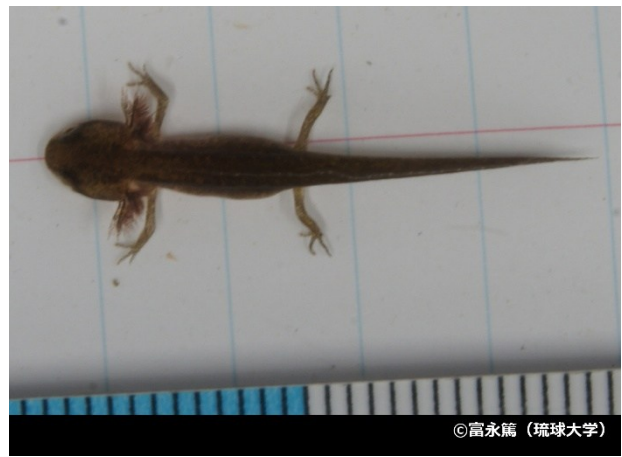
Cynops pyrrhogaster has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cynops pyrrhogaster* is listed as NT under criteria ①②③.

The species that is considered to be under increasing pressure for survival, as indicated by habitat status trends, specifically with the following notable tendencies in parts of its distribution that are likely to continue.

- ①The number of individuals is decreasing.
- ②Habitat conditions are deteriorating.
- ③There is significant pressure from over-harvesting.

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Mid-altitude area, Low-altitude area】 Forest, Farmland, Abandoned farmland, Agricultural ditch, Wetland/Marsh/Stream, Middle river basin, Reservoir/Pond, Lake/Dam 【Terrestrial/Freshwater area_Plain】 Bare area, Forest, Grassland, Estuary, Inlet, Agricultural ditch
Threat types:	Lake development, River development, Wetland development, Field preparation, Grassland development, Land development, Vehicle collision, Water pollution, Pesticide/Toxic chemical pollution, Hunting and collecting animals/Gathering plants

Law designation status for conservation	Prefectural Ordinance-Designated Species 【Saitama・Aichi】.
---	---



執筆者:	富永篤（琉球大学）・松井正文（京都大学）
Author:	Atsushi Tominaga and Masafumi Matsui

公表年月：2026 年 3 月